

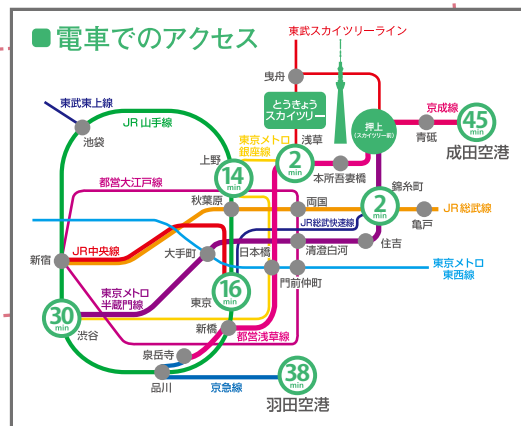
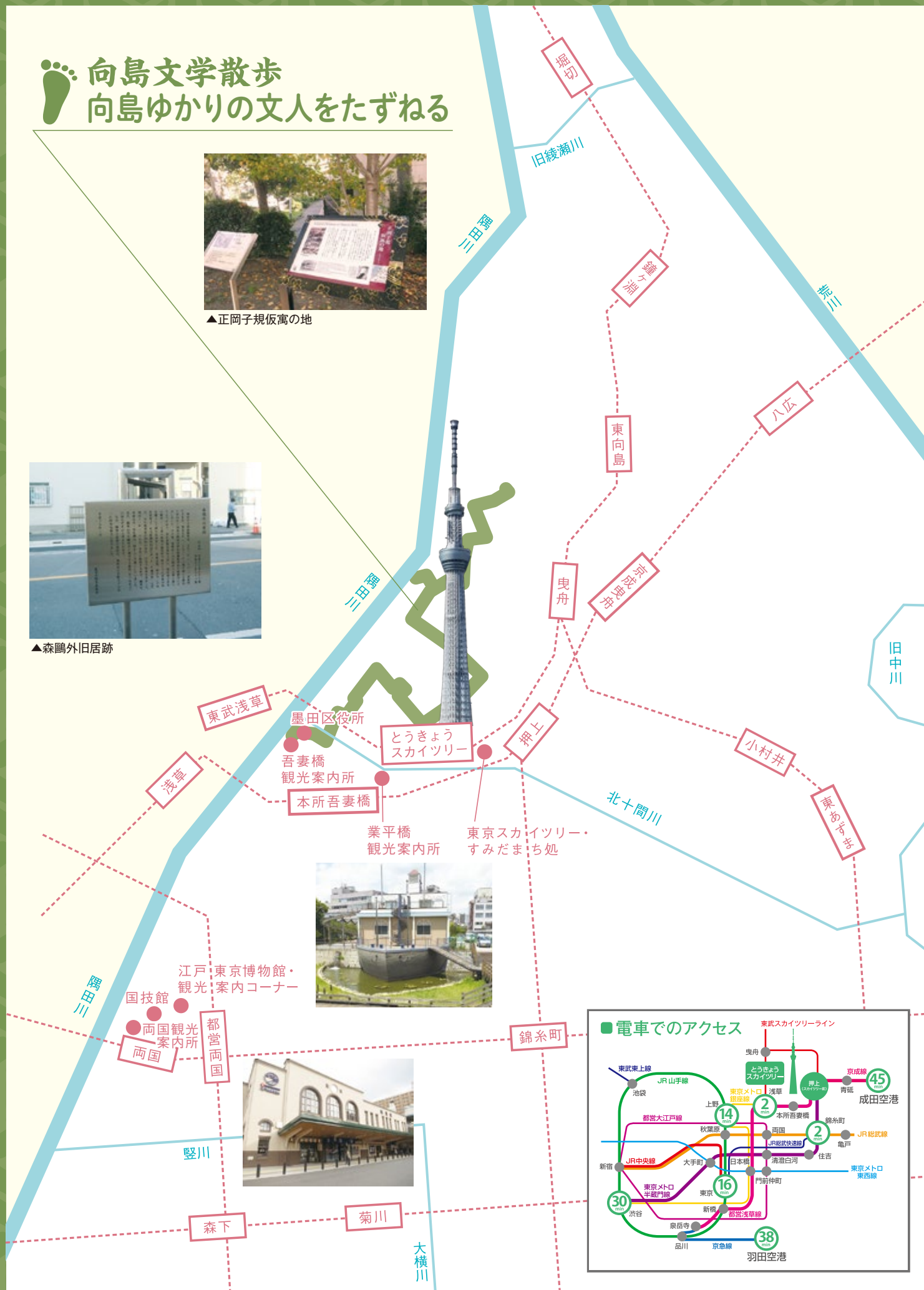
向島文学散歩 向島ゆかりの文人をたずねる



▲正岡子規仮寓の地



▲森鷗外旧居跡



向島文学散歩 向島ゆかりの文人を たずねる

向島・東向島
MUKOJIMA, HIGASHI-MUKOJIMA

堀辰雄旧居跡



露伴児童遊園



おすすめスポット

吾妻橋観光案内所
堀辰雄旧居跡
佐多稲子旧居跡
すみだ郷土文化資料館
饗庭篁村旧居跡
森鷗外旧居跡
淡島寒月旧居跡
正岡子規仮寓の地
依田学海旧居跡
吉川英治旧居跡
露伴児童遊園

淡島寒月旧居跡

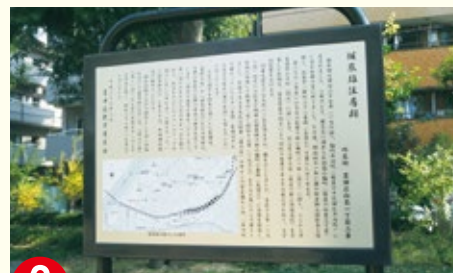


向島文学散歩

向島ゆかりの文人をたずねる

向島・東向島

隅田川の景色は、何ものにも代えがたく美しいものです。かつて、向島に居を構えた文人たちはこの景色と人を愛しました。そして、多くの名作がこの地から生まれました。



2 堀辰雄旧居跡

『風立ちぬ』で有名な堀辰雄は、2歳のときに向島小梅町に越してきました。高校入学後に文学に目覚め、大学に進学した翌年には中野重治らと共に、同人誌『驢馬』を創刊しています。



5 饗庭篁村旧居跡

明治時代の小説家で演劇評論家。新聞社の編集記者として、劇評や小説を執筆していました。『隅田の春』では、向島小梅町や寺島で暮らしていた頃のエピソードなどが書かれています。



7 淡島寒月旧居跡

淡島椿岳は知識欲が旺盛な趣味人で、明治17（1884）年に弘福寺敷地内に隠居所を構えました。その後、息子の寒月がこの隠居所に「梵雲庵」と名付けて隠居。悠々自適な生活を送りました。



8 正岡子規仮寓の地

近代日本を代表する俳人・正岡子規。向島周辺の景色を好み、こうした歌を数多く遺しています。「長命寺 桜もち」の2階を3ヶ月ほど借り、自ら「月香楼」と名付けて滞在していました。



1 吾妻橋観光案内所

「すみだ」の街を歩くには欠かせない観光マップやパンフレットを配布。英語でのご案内もしています。併設のカフェで一休みも。
【営業時間】観光案内・展示販売 9:00～17:00、カフェ 11:00～16:30、17:30～20:00
【電話番号】03-6658-8097



4 すみだ郷土文化資料館

すみだの歴史や伝統文化を紹介するとともに、貴重な文化遺産を保存・継承していく資料館。1階や2階の展示スペースなどでは、堀辰雄や幸田露伴、森鷗外など、すみだゆかりの文人たちを紹介しています。
【開館時間】9:00～17:00（入館は16:30まで）
【休館日】月曜（祝日の場合は火曜）・毎月第4火曜（祝日の場合は水曜）・12月29日～1月2日まで
【電話番号】03-5619-7034



3 佐多稲子旧居跡

佐多稲子は小学校を中退後、働きながら小説や短歌を投稿。これらは後に、『キャラメル工場から』にまとめられました。自叙伝『私の東京地図』には、長く暮らした向島のことが書かれています。



6 森鷗外旧居跡

10歳のときに父と上京し、向島須崎村の亀井邸へ入りました。その後、向島小梅町に転居。『鵬外』『牽舟（ひきふね）居士』などすみだの地に由来したペンネームをつけるほど、この街に強い愛着を抱いていました。



まち歩きには墨田区内循環バス「1日乗車券（300円）」も便利！バス車内で購入できるほか、産業観光プラザ すみだ まち処、吾妻橋観光案内所、両国観光案内所等でも販売しています。



多くの作家たちが愛した向島



今もなお、都会の喧噪を忘れさせてくれる向島界隈。幸田露伴や森鷗外、正岡子規など多くの文人が暮らした街の足跡をたどれば、きっと新たな発見に出会えます。向島地域には地域団体が設置した「観光案内板」があり、作家たちの足跡などをたどれます。もっと詳しく知りたいという方には、観光案内所で扱っている「向島文学散歩」（頒布価格350円）がオススメです！



9 依田學海旧居跡

森鷗外の師としても知られる依田學海は、向島の隅田川の土手を臨む須崎村に居を構えていました。向島百花園にも頻りに足を運び、明治15年に発行された『墨水二十四景記』に百花園について記載しています。



10 吉川英治旧居跡

大正6（1917）年、25歳の時、吉川英治は花街で知り合った赤沢やすと寺島村で暮らし始めます。本格的な作家活動は『親鸞記』の連載。その後は、『剣難女難』や『鳴門秘帖』で文学作家としての地位を確立しました。



11 露伴児童遊園

幸田露伴の区内3番目の家「第二蝸牛庵」がありました。園内には露伴の代表作『運命』の碑が建てられています。府立第七中学校（現：墨田川高校）が開校するにあたり、露伴は校歌を作詞しています。

ちょっと寄り道

長命寺桜もち

享保2（1717）年、初代山本新六が隅田川土手の桜の葉を塩漬けにして餅を包んだ桜もちを考案し、長命寺の門前で売り出したのが始まりです。正岡子規がこの店の2階に3ヶ月ほど滞在した際、「花の香を 若葉にこめて かぐわしき 桜の餅 家つとにせよ」の句を詠んでいます。
【定休日】月曜 【営業時間】8:30～18:00
【電話番号】03-3622-3266

